

だいがくめい
大学名 : 福島大学

なまえ
名前 : レティエン

<レポート>

福島に来てから二年目になったが、今回はじめて2泊3日での留学スタディツアーに参加した。多くの福島県内の留学生と日本人に出会い、さまざまなことを勉強になったので、本当にこの機会に参加して良かったと思っている。最初に、大安場史跡公園では、学芸員さんから説明を聞いて、大安場古墳は千数年前に造られた地域の豪族の墓であり、古代の人々の生活をイメージとして知ることができ、実際に古代時代の道具を見て触ってみて実感でき、原発事故の被害を受けた後に、回復するためにどのように取り組んでいたか聞きました。そして、あぶくま洞に入る前に寒いと思ったが、入った時に意外に暖かく、景色が自然にできたものなので非常にきれいであった。ベトナムでも、あぶくま洞のような洞窟があるので洞窟の歴史や鍾乳石がどのように現在の形になったかの説明はある程度知っているが、洞窟の中にワインを作り、保存できることをはじめて聞いたので面白いと思った。また、須賀川の伝統工芸である絵のぼりや白河だるまの絵付けの由来が分かった上で、実際に体験を通して福島の伝統を感じ、楽しかった。特に、ひのき風呂の宿分家と雨情の宿新つたという宿泊先ははじめて浴衣をきて温泉を体験したので楽しかったです。それに、おいしい名産物が食べられ、留学生たちとその地域の日本人と交流しながら、様々な意見と説明を聞くことができたので勉強になった。けれども、私は英語があまりできなかったため、ほとんど英語しかできない留学生に話したとき、本当に困った。一方で、その機会を通して自分がまだ足りないところを実感できたので、英語能力をもっと増やしたい気持ちを持っている。さらに、相馬市伝承鎮魂祈念館に行って、旅館の女将村上美保子さんの話を聞いてから原発事故の影響や津波、地震などの災害を受けた地域の人たちの生活の様子が実感できた。特に、紙芝居の話はすべては分からなかったが、その話を聞いて人の心に強く感動を与えると考えた。また、アクアマリンふくしま、南相馬ソーラー・アグリパーク、いわきディクルーズというところに行ったときに、原発の事故の影響で災害を受けたが、福島が早く復興できるために、よく頑張ってさまざまに取り組んでいる福島の人たちの姿が見れたので、非常に感動した。そして、震災の前に、福島の水産業がかなり発展し、多くの水産物が取れたが、震災の後に取れる水産物の数がずいぶん減ってきた。しかし、試験場は水産業の復興に向け、人々に安全な水産物を送ることを目的として、水産物に対して厳しくチェックし、いろいろな試験や取り組みを行ったことが感じた。そのため、今回水産試験場相馬支場に行って、実際に作業に係わる人の話を聞いたので、ふくしまのものが危なく、できるだけ食べないほうがいいという考えを変えたいと思っている。